

# ことばをはぐくむ

大阪府立岸和田支援学校  
自活研究部

<ことばときこえのしくみ>

## (1) ことばを言うまでのプロセス

AさんがBさんに出会ったとします。

B 「こんにちは。お出かけですか？」

A 「こんにちは。ええ、ちょっとそこまで」

B 「いってらっしゃい」

A 「はい。どうも、失礼します」

Bさんの顔を見て知っている人だとわかる  
(視覚的認知)。名前を思い出す

Bさんが話しかけたことを耳で聞いて、その  
音进行分析して意味を大脳で理解する  
(聴覚的理解)

「こんにちは、お出かけですか」に対する返  
事の中身を大脳で組み立てる。そして、そ  
の中身にふさわしい音を日本語の語音の  
中から選び出す。

肺に十分な量の空気があるかどうか確かめる。足りなかったら息つきをして、空気を補充する。

空気をはき出しながら、声帯を振動させ、声のもとになる音をつくり出す（喉頭原音）。

空気が、口からだけ出るように（鼻にもれないように）、鼻へ行く空気の通り道を閉じる（鼻咽腔閉鎖）。

唇、あご、舌を動かして音をつくりだす（構音）

## (2) 構音の種類と発達

### 会話が成立するまでの発達の目安

0歳	→	1歳	→	2歳	→	3歳
喃語						語彙の爆発的増加
いろいろなまね				2語文発話		
ことばの理解				「ぱぱ かいしゃ」		
				「わんわん きた」		簡単な会話
指さし				意味のあることば		
				(マンマ・ブーブー)		

※個人差が大きい

# 口の動きと発達

年 齢	90%通過月齢
2:2~	舌をまっすぐに前に出す
2:8~2:9	舌を出したり入れたりを交互に繰り返す
2:9~2:11	舌で下口唇をなめる
3:0~	舌で左右の口角をつけるのみ
3:0~3:6	両頬を膨らます
3:5~	パタカを1回だけ言う
3:6~	口唇をとがらす
3:7~	舌を左右口角に交互につける
5:0~5:5	パタカを繰り返す
5:0~	両頬を左右交互に膨らます

# 発音の発達

1歳前後	パ、バ、マ
2歳前後	タ、ダ、ナ
3歳前後	カ、ガ
4～5歳	サ、ラ、ツ

※パタカ検査は便利な検査  
→舌の器用さがわかる



# (3) 暮らしの中で構音の基礎をつくる

## 基礎づくりは食事から

### ・飲むことの練習

哺乳瓶：舌や唇・顎の高度な動きを引き出せない

→スプーンやコップに移行

### ・かむことの練習

かむことに、なくてはならない舌の動き

かむ練習になる食べ物を毎日1口食べる

→1年に365口の練習に。持続こそ力。



# 吸う・吹くことの練習

呼吸のコントロール

鼻咽腔閉鎖機能をうまく働かせる

ことばの基礎

- ・吸う練習：スプーンやストローで水分を吸う  
ストローで色紙を吸いつけてゲームをする
- ・吹く練習：吹く行為が音や動きとして耳や目に入る  
(聴覚的・視覚的フィードバック)教材を  
(例) 笛・ラッパ・ハーモニカ・ローソク・  
シャボン玉・綿や羽毛とばし・風車・  
ピンポン玉・紙袋をふくらませて割る



# うがいと歯みがき(発声・発語運動を促す)

- ・うがい: 口の奥の方のはたらきを高める

  - 「カ」の発声(奥舌を上げる)へ

  - 水含み→水の移動(ぐちゅぐちゅぺっ)→水を含んで上を向く→上を向いて口を開ける→がらがらうがいへ

- ・歯みがき: 口腔内の感覚を高める

- ・舌や唇の動きを高める:「なめる」こと

(例) チョコやはちみつを口腔周囲に塗ってなめる、あめやクリームを舌を出してなめる

おくちの体操

- ・声を長く続けて出す

「アー」持続時間をはかる: 黒板の端から端まで線が届くまで(視覚的フィードバック)

# おくちの体操

## ① あごの運動



口を大きく開く



パツと閉じる

## ② あごの運動



口を大きく開く



下あごを右に動かす



下あごを左に動かす

## ③ 唇の運動



唇をつき出す



唇を横にひく

## ④ 唇の運動



唇を閉じる



ほほをふくらませる

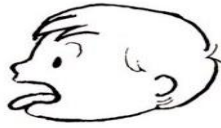


ほほをへこませる

## ⑤ 舌の運動



口を大きく開く



舌をつき出す



口の中にもどす

## ⑥ 舌の運動



口を大きく開く



舌先を鼻に近づける



舌先を下にさげる

## ⑦ 舌の運動



口を大きく開く



舌先を唇の右端につける



舌先を唇の左端につける

## ⑧ 舌の運動



口を大きく開く



舌先を唇にそって回す



逆回し

## (4) 聞こえ

### ・「聞こえる」と「聞く」とはちがう

カクテルパーティ現象: 自分の意志の力・集中力を発揮して、まわりの種々の雑音の中から、特定の音を選び出して「聞く」こと

### ・聞かせる工夫

静かな環境の中での呼びかけ

色々な声を使い分け驚きを誘い注意を集中させる

肩をたたいたり、手をとって向き合って、目と目をしっかり見つめ合いながら話しかける(聴覚以外の感覚を送り込み、脳全体をシャッキリ目覚めさせる)

# 聞こえの程度

dB	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130
聴覚障害	聴者		軽度難聴			中度難聴		高度難聴			ろう			
聞こえの程度	ささやき声		普通の会話			大声		怒鳴り声	ガード下での 鉄道走行	地下鉄走行音	飛行機の エンジン音			